

血液培養から *H. equorum* が検出された一症例

◎竹中 佑太¹⁾、佐藤 多嘉之¹⁾、小林 延行¹⁾、菊池 彩翔¹⁾、佐渡 正敏¹⁾、川幡 智樹¹⁾、坂本 央¹⁾、奥村 利勝¹⁾
旭川医科大学病院¹⁾

【はじめに】

Helicobacter equorum (以下、*H. equorum*) は、馬の盲腸、結腸および直腸に定着するグラム陰性らせん桿菌である。今回、我々は馬との接触歴がない患者の血液培養から *H. equorum* が検出された症例を経験したので報告する。

【症例】

患者は74歳の女性。肥大型心筋症、全身性エリテマトーデス、免疫性血小板減少症の既往歴があり、数年前に腹部大動脈瘤の手術を行った。20XX年5月定期受診時に腰痛、発熱、悪心を認め各種感染症迅速検査、血液検査、血液培養が2セット提出された。血液検査では貧血と炎症反応を認めたが感染症迅速検査は陰性、抗菌薬を処方され帰宅となった。2週間後の再来院時に、微熱と腰痛の改善がみられず、血液検査で炎症反応の上昇が認められたため即日加療目的のため入院となった。

【微生物学的検査】

血液培養2セットのうち好気ボトル1本が4日目に陽転し、グラム染色にてグラム陰性らせん桿菌を認めた。

35°C24時間好気培養と35°Cおよび42°C48時間微好気培養を実施し、35°C好気培養と35°C微好気培養の5%羊血液寒天培地に少量のフィルム状のコロニーを認めた。

VITEK MSを用いて同定検査を実施したが菌種同定には至らず、16SrRNA遺伝子解析と薬剤感受性試験を外部委託した。16SrRNA遺伝子の塩基配列解析で *H. equorum* (相同性99.14%)が最も相同性が見られた。薬剤感受性試験はO-ブロスを用いて実施された。

【考察】

本菌種は、*H. kumamotonensis* との区別が難しく、本菌種を正確に同定するためには16SrRNA遺伝子解析に加え鞭毛の数等を踏まえて同定する必要がある。薬剤感受性試験では、CLSIの判定基準がないため、参考値でも臨床へ報告することが重要であると考え。今回、馬との接触歴がない患者から *H. equorum* が検出されたことによって、他の保菌動物の存在や、近縁菌種と区別することの重要性が示唆された。

連絡先 0166-65-2111 内線 3364